

会 議 要 旨

会 議 名	平成30年度 第3回館山市行財政改革委員会
開 催 日	平成30年10月19日(金) 13:30~15:50
開 催 場 所	館山市役所 本館2階会議室
出 席 者	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 館山市行財政改革委員会委員 8名 ◆ 館山市(事務局) 副市長・総務部長・行革財政課(課長以下5名)
公開・非公開の別	公開
非公開の場合の理由	
傍 聴 者	0名
会議概要・結果等	<p>○情報提供</p> <p>(1) 学校給食センター整備運営事業について 事務局よりPFIによる新学校給食センターの整備について説明。</p> <p>(2) 公共施設空き状況システムの運用開始について 事務局より、全市的に利用可能な社会教育・体育施設で導入した公共施設 空き状況システムについて説明。</p> <p>【(1)～(2)に関する主な委員意見】</p> <p>(●:委員意見 ⇒:事務局回答)</p> <p>《学校給食センター整備運営事業について》</p> <p>●PFI事業を担える事業者が市内にあるのか。市外の企業にお金を持って行 かれるのは寂しい気がする。</p> <p>⇒PFIによる建設は南房総地域では初の事例。市内の企業がこういった案件 を経験できれば、PFIの事例が多い県北での仕事も得ることができる可能 性があり、市内企業の育成にもつながると考えている。</p> <p>《公共施設空き状況システムについて》</p> <p>●初めのステップとしては理解するが、市民が予約しやすい環境にすること がゴールなのではないか？他県では8割の市町村が一緒のシステムを導入 し、負担金も安くなっている事例がある。</p> <p>⇒県のシステムの導入も検討したが、予約の空き状況が見づらく、パスワー ドをもらうために施設に足を運ぶ必要もある。抽選結果等も考慮するとシ ステムが複雑になる。また初期費用が高い。今は施設を予約したときに次 の予約をしていく形がメインなので、すぐに予約システムを導入すること は難しい。</p> <p>※その他、主な委員コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回電話して空き状況を聞いていたのでありがたい。

- ・館山の施設数、利用者数を考えれば、このぐらいが妥当ではないか。
- ・社会教育施設では月謝を取って教室を開催することができない。解決できれば、利用者も広がるのではないか。
- ・これだけの施設を管理して、14%程度の収入しかない。赤字額としていくらになるのか知りたい。

○協議事項

(3) 個別の事務事業の状況について

①現在実施中の個別事務事業

事務局より、現在市が行っている130の事務事業について説明。

②過去の事業仕分け及びイベント・行事实施状況

事務局より、過去行った事業仕分け対象事業と、結果及び財政効果額を説明。また、現在館山市で開催される規模・知名度が高いイベントを中心に、職員労力や問題点を説明。

【(3)に関する主な委員意見】

●事務局は今後の委員会運営スケジュールをどのように考えているのか？

⇒年度中に2～3回程度の開催を考えている。今年度は活動内容を固め、次年度事業仕分けを実施するのか、他のテーマを議論していくのか、決めたい。

※その他、主な委員コメント

- ・市職員のイベント従事状況、大変だと思う。お金だけでなく、相当の人手・時間がかかっている。住民サービスの一環で残っているものが、観光とか子どもとか、名前を変えているだけ。市民の一部のみがその行事を心待ちにしている。職員の手がかかっていることを、どう金額的に換算するのか、職員間でよく話してはどうか。
- ・職員数を減らしたことによる財政効果は大きかった。今後何をやったら財政効果が上げられるのか。これからの行革は、役所のやる改革自体は少ない。役所がやることを民間がいかに肩代わりできるかにかかっている。
- ・各イベント、経済効果なのか、その他の効果があったのか、いずれにしろ実施した効果を示すべき。事業費に職員の人件費を考慮すると相当な額。その額をつぎ込んでやる意味があるのか。事業費ベースでなく、職員の関わり方、スタンスのあり方も見るべき。
- ・民間企業では自社のPRに相当なお金をかける。それで商売が成り立つ。市のPR業務を行っている部署の評価を上げるような考え方が必要では。
- ・行政は人事評価と事業評価がつながっていない。民間企業のように、プロジェクトにかかる人件費の感覚がなくなっている。事業を実施し、何を成果指標とするのか。その事実の積み上げが大切。

(4) 今後の方向性について

伊藤委員長より、近年の事業仕分けの概要について説明。

- ・鴨川市では、「市民とどれだけ市がやっていることが共有できるか、市民と共に事業のやり方を見直す」ことが目的。かけられている事業費がより市民のためになったかどうか。

- ・計画でなく事実・実績ベースでのチェック。具体的にどのような効果があったのか。総合計画は理念であって、実現するための方法は別。
- ・対決でなく、市民と課題を共有し、解決する場。
- ・館山で実施するのであれば、「市民判定人方式」がよいのでは。議論そのものは市民はせず、議論を聞いて、最終的な評価は市民がする。無作為で抽出した人のうち、応募者に来てもらい、判定人として評価してもらおう。女性や若者の参加率が多くなるし、参加した人の行政への理解が格段に上がる。
- ・事業仕分け、「そうはいつでもダメなものダメ」という効果もある。他人事を自分事にする事で、行政の無駄な部分がなくなることに繋がるのでは。

【(4) に関する主な委員意見】

- ・事業仕分けを実施するとして、参加する市民に、どのような形で情報提供をしていくのか。その方法を市には検討してほしい。色々なことがわかった上で、市民が選択できるという会議の方法をやってほしい。
- ・町内会での取り組みなど、自分が普段何気なく生活していることが、だんだんリンクしてきた。委員会に参加し、視野が広がった。この無作為抽出という方法は自分のような人間を増やすという意味でよいのでは。
- ・子育て世代、若いからといって、興味がないというわけではない。新聞やメディアだけでは市の細かいところはわからない。
- ・子どものために館山はもっと力を注いでいくべき。若い世代の声をどう発信するのか。そこにチャンスがある。イベントはそういったツールになるのではないか。逆にハードはどんどん減らしていくべき。
- ・民間企業は予算上数パーセントのことなど相談せず止めることができる。しかし行政はそうはいかないし、そういう役割を担っている。事業仕分けなら、色々な人が知るようになる。
- ・この委員会に参加するようになり、初めて市の広報や議員の活動報告を読むようになった。傍観者だった人が参加してくれれば、自分たちができることはないかと探し始める良い機会ではないか。

⇒事業仕分けの実施で各委員の方向性一致。

次回は事業仕分けまでのスケジュールと、これまでの勉強会をふまえた委員会としての取りまとめ案を検討する。

(5) 次回日程について

- ・12月27日(木)に決定し終了。